

## 平成30年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果

大 学 名	○東京外国語大学、国際基督教大学	タイプ	A
事 業 名	「多文化主義的感性とコンフリクト耐性を育てる太平洋を越えたCOIL型日米教育実践」		
海 外 の 相 手 校	サンディエゴ州立大学、ニューヨーク州立大学オルバニー校、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カリフォルニア大学リバーサイド校、カリフォルニア大学アーバイン校、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、カリフォルニア大学、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、南カリフォルニア大学		

### 〔評価コメント〕

本事業計画は、日米関係の将来に求められる国際的な市民的公共性の涵養を中心的な理念として掲げ、日米双方の学生が関心を持ち得る4つのテーマを設定し、COIL型教育としてオンラインのゼミ形式の授業を導入する構想になっており、高く評価できる。

東京外国語大学はCOIL型教育に一定の実績を有しており、その経験からCOIL型教育としてリアルタイムのディスカッションが可能な時差範囲である米国西海岸の大学を主たる交流先として選定するなど、本事業の実効性を上げるための工夫が成されている。さらに、教育の目的と意義に応じて、オンラインとオフラインの使い分けが明確になっており、教育効果を高めるための方策が練られている。プログラムの内容も体系化、階層化されているため、学生は段階を踏んで高いレベルに進むことが可能となっている。国内連携の2校は共に海外の大学との連携に実績を有しており、既存のネットワークを基盤に本事業における米国側の相手大学との交流モデルが組み立てられ、学生の派遣や受入についても相応の規模感をもった構想であると言える。また、COIL型教育に実績のある東京外国語大学と交換留学に実績のある国際基督教大学の連携は相互補完の関係にあり、COIL型教育の活用を通して日米間の学生交流を拡大するという新しいアプローチに期待が持てる。

一方で、米国の相手大学から受け入れた学生に提供する日本での英語によるインターンシップ及び日本から米国に派遣する学生が従事するインターンシップについては具体性に乏しく、十分に準備されているとは言えないことから、実現に向け相当の努力が求められる。

最後に、今回本事業に選定されたことを受け、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。